

## 月報だより

月報だよりの原稿は毎月20日締切、翌月に発行の「天文月報」に掲載致します。校正をお願いしておりますので、締切日よりなるべく早めにお申し込み下さい。

e-mailで [gpjimu@asj.or.jp](mailto:gpjimu@asj.or.jp)宛、なお、原稿も必ず0422-31-5487迄 Faxでお送り下さい。

## 人事公募

標準書式：なるべく、以下の項目にしたがってご投稿下さい。結果は必ずお知らせください。

1. 募集人員（ポスト・人数など）、
2. (1) 所属部門・所属講座、(2) 勤務地、
3. 専門分野、
4. 職務内容・担当科目、
5. (1) 着任時期、(2) 任期、
6. 応募資格、
7. 提出書類、
8. 応募締切・受付期間、
9. (1) 提出先、(2) 問合せ先、
10. 応募上の注意、
11. その他（待遇など）

## 東京工業大学大学院理工学研究科教授公募

1. 教授1名
2. 東京工業大学大学院理工学研究科基礎物理学専攻基礎物理学実験講座
3. 広い意味での宇宙物理学実験
4. 学部・大学院での教育も担当する
5. (1) 決定後できるだけ早い時期
6. 40歳前後の方が望ましい
7. ○履歴書（連絡先、e-mail address）、○研究歴、○着任可能時期、○論文・業績リスト、○主要論文別刷（5編以内）、○これまでの研究概要、○これからの研究・教育の計画と抱負○推薦書一通以上、または意見を求めうる方2名以上の氏名・所属・連絡先（Tel, Fax, e-mail address）
8. 2000年9月1日(金)当日消印有効
9. 〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1  
東京工業大学大学院理工学研究科基礎物理学専攻基礎物理学実験講座教授選考委員会 委員長  
渡辺靖志  
Tel: 03-5734-2081

Fax: 03-5734-2389

e-mail: [watanabe@hp.phys.titech.ac.jp](mailto:watanabe@hp.phys.titech.ac.jp)

10. 「応募書類」と朱書し、書留または簡易書留で送付のこと（特に申し出のない限り応募書類は返却しない）

## 国立天文台研究員公募

1. 天文台研究員1名
2. (1) 岡山天体物理観測所（または光学赤外線天文学・観測システム研究系）、(2) 岡山県浅口郡鴨方町（または東京都三鷹市）
3. 光学赤外線観測天文学
4. 岡山天体物理観測所では、現在、188 cm 望遠鏡を軸に赤外線分光撮像装置 OASIS、カセグレン分光器 SNG、高分散分光器 HIDES の共同利用観測を行い、新たに偏光分光測光器 HBS の立ち上げが進められている。今回は特にこれらの装置を用いた観測的研究や開発的研究を推進する若手研究者を求め、デューティの時間は50%を越えないよう配慮する。
5. (1) 決定後なるべく早い時期
6. 大学院博士課程修了またはそれと同等以上
7. (1) 略歴書、(2) 研究歴、(3) 研究論文リスト、(4) 研究計画書、(5) 主要論文別刷
8. 平成12年8月25日必着
9. (1) 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
国立天文台長 海部宣男  
(2) 東京都三鷹市大沢 2-21-1  
光学赤外線天文学観測システム研究系主幹  
家 正則  
Tel: 0422-34-3520  
e-mail: [iye@optik.mtk.nao.ac.jp](mailto:iye@optik.mtk.nao.ac.jp)
10. 封筒の表に「光赤系研究員応募書類在中」と朱記し、簡易書留にて送付のこと。

## 東北学院大学教養学部教員公募

東北学院大学教養学部は人間科学専攻、言語科学(言語文化)専攻そして情報科学専攻の三つの専攻からなる学際的な性格を持つ学部で、三つの専攻の共通の大学院として人間情報学研究科博士課程前期後期課程が設置されています。現在本学部では情報科学専攻の教育研究の充実のために教員の補充を進めています。そのため平成一三年度について以下のような要領で専任教員の公募をいたします。

1. (A) 教授 1 名, (B) 講師または助教授 1 名
2. (1) 教養学部情報科学専攻  
(2) 宮城県仙台市
3. 公募分野: 情報科学
4. 職務内容, 担当科目  
(A) 人間科学, 言語科学にたいしても関心のある広い視野を持った情報科学研究者. 担当科目は情報科学一般, 学部および大学院を指導できる方  
(B) 講師または助教授一名: 人間科学, 言語科学にたいしても関心のある広い視野を持った情報科学研究者. 担当科目は情報科学一般, 演習のためのネットワーク管理などもできる方.
5. (1) 2001 年 4 月 1 日
6. 応募資格  
(A) 大学院博士課程修了または同等以上. 年齢 60 才ぐらまでの方  
(B) 大学院博士課程修了または同等以上. 年齢 40 才ぐらまでの方
7. 提出書類: (1) 履歴書, (2) 教育研究歴 (これまでの教育研究の概要がわかるもの. コンピュータ管理, ネットワーク管理などの経験もこれに含まれる), (3) 研究業績一覧表, (4) 学術著書, 研究論文(応募者が審査を受けるのに適当と思われるもの 2 または 3 編を選びそれぞれに 200 字以内の要旨を付ける), (5) 本人について意見の述べられる人二名の氏名と連絡先.
8. 2000 年 7 月 31 日(月) 必着
9. (1) 〒 981-3193 仙台市泉区天神沢 2-1-1  
東北学院大学泉キャンパス 庶務係気付  
東北学院大学教養学部長 宛  
(注) 封書に「教養学部教員募集書類在中」と朱書きし, 公募 (A) か公募 (B) かを明記すること. 郵送の場合は書留郵便にてお送りください.
9. (2) 情報科学専攻教授 相川利樹  
Tel: 022-773-3318  
e-mail: aikawa@ghi.tohoku-gakuin.ac.jp
11. 待遇: 採用時に於ける本学規定による.

選考方法: 書類審査および面接による. 審査結果は 9 月下旬までに文書にて通知します.

## 郵政省通信総合研究所任期付き研究員公募

1. 研究員 10 名程度
3. ①通信ネットワーク, ②情報通信ヒューマニゼーション, ③無線通信システム・電磁環境, ④宇宙通信システム・衛星測位, ⑤地球環境計測, ⑥宇宙天気予報, ⑦標準周波数・標準時・高精度時空計測, ⑧光情報通信, ⑨情報通信のための材料・デバイス, ⑩生物情報
5. 原則として 2001 年 4 月 1 日
6. ①原則 34 歳未満 (国籍不問), ②採用時に博士の学位を有すること, ③1 年以上のポスドク経験を有することが望ましい
7. ①事前訪問票 (当所所定様式), ②研究経歴書 (研究業績の要約を含む), ③論文リスト, ④主要論文別刷, ⑤履歴書
8. 2000 年 8 月 31 日
9. 〒 184-8795 通信総合研究所人事係馬淵  
Tel: 042-327-7625  
e-mail: mabuchi@crl.go.jp
11. 国家公務員採用 I 種試験等による採用もあるので, 詳細については電子メールにて問い合わせのこと.  
URL <http://www.crl.go.jp/>

## 宇宙科学研究所教官公募

1. 助教授 1 名
2. (1) 宇宙圏研究系 高エネルギー天体物理学第一部門  
(2) 神奈川県相模原市由野台 3-1-1 宇宙科学研究所
3. 4. 飛翔体を用いた高エネルギー天体物理学の研究. 今後予定される X 線天文衛星の開発・観測運用を積極的に進めるとともに, 広く, 高エネルギー天体物理学の観測的研究・機器開発に中心的役割を果たす方を希望する. なお, 当該部門は, 現在, 満田和久教授・石田学助手・藤本龍一助手が在籍し, 高エネルギー天体物理学第二部門, 同第三部門と協力して研究を行っている. 大学共同利用機関である本研究の役割を理解し, 共同利用諸計画の遂行にも積極的な役割を果たしていただく必要がある.
5. 決定後できるだけ早い時期

7. (1) 略歴, (2) 研究歴, (3) 論文リスト及び主要論文別刷り, (4) 研究計画書, (5) 他薦の場合, 推薦書2通, 自薦の場合, 本人について意見を述べられる人2人の氏名と連絡先.
8. 2000年9月29日(金)必着
9. (1) 〒229-8510 神奈川県相模原市由野台3-1-1  
宇宙科学研究所 庶務課人事係  
(2) 宇宙圏研究系 井上 一  
Tel: 042-759-8149  
Fax: 042-759-8455  
e-mail: inoue@astro.isas.ac.jp
10. 封筒の表に, 「宇宙圏研究系助教授応募(推薦)書類在中」と朱書して下さい. 選考は, 宇宙科学研究所運営協議会において行います. 応募者に適任者がいない場合は決定を保留することがあります.

## 人事公募結果

- 掲載号
- 結果(前所属)
- 着任時期

## 京都大学大学院理学研究科物理学宇宙物理学専攻教官

- 2000年8号
- 千葉 剛(日本学術振興会特別研究員/東京大学大学院理学系研究科)
- 2000年4月1日

## 名古屋大学太陽地球環境研究所教官

- 2000年5号
- 湯田利典(東大宇宙線研)
- 2000年8月1日

## 名古屋大学大学院理学研究科物理学専攻教官

- 2000年1号
- 松原隆彦(東京大学大学院理学系研究科助手)
- 9月16日

## 研究助成

### 日本証券奨学財団 平成12年度研究調査助成募集

標記助成金の募集要項が, 学会宛に届いております. 対象者は, 大学に於いて学術文化の研究調査に従事している個人又はグループで, 研究者は55歳以下ですが, グループ代表者は55歳を越えてもよい.

理学・工学については, 新素材及び環境改善に関する萌芽的研究.

◎助成金総額: 5,000万円

1件につき100万円程度で, 多額の経費を必要とする特別研究調査は, 300万円以内.

◎申請の手続: 助成金の申請は, 本財団所定の申請書(天文学会にあります)に所属機関の長及び専門の学者の推薦書を添え, 平成12年8月18日(金)までに本財団までに提出する. なお, 申請は1大学当たり1部門につき2件以内とする.

照会及び提出先:

〒103-0025 中央区日本橋茅場町1-5-8 東京証券会館F6  
(財)日本証券奨学財団  
Tel: 03-3664-7113

### 2000年度朝日賞候補者の推薦について

朝日新聞文化財団より標記の依頼がきております. 朝日新聞社の推薦票は天文学会事務室にあります.

- 候補者の対象: わが国のさまざまな分野で傑出した業績をあげ, 文化・社会の向上に貢献された個人または団体.

2. 締切: 2000年8月31日(木)必着

3. 発表: 2001年元日の朝日新聞紙上.

お問い合わせ及び送付先: 〒104-8011 中央区築地5-3-2

朝日新聞社文化企画局文化メセナ部「朝日賞」係

Tel: 03-5540-7453 Fax: 03-3541-8999

平成 12 年度 東レ科学技術賞・研究助成の候補者推薦のお願い

東レ科学振興会から次の概要が届きましたのでお知らせいたします。応募用紙は日本天文学会までご請求下さい。

I. 東レ科学技術賞 (概要)

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、下記に該当するもの
  - (1) 学術上の業績が顕著なもの
  - (2) 学術上重要な発見をしたもの
  - (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
  - (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの
2. 科学技術賞……1件につき、賞状、金メダルおよび賞金 500 万円、2 件前後。
3. 候補者推薦件数……1 学協会から 2 件以内

II. 東レ科学技術研究助成 (概要)

1. 候補者の対象……天文学に関する分野で、基礎的な研究に従事し、その研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者。
2. 研究助成……総額 1 億 3 千万円、1 件 3 千万円程度まで 10 件程度。
3. 候補者推薦件数……1 学協会から 2 件以内。

III. 天文学会必着日 (I, II とも) …平成 12 年 9 月 8 日 (金)

研究会・集会案内

第 2 回大気・環境・宇宙リモートセンシングに関する SPIE 国際アジア太平洋シンポジウム  
**SPIE's Second International Asia-Pacific Symposium on Remote Sensing of the Atmosphere, Environment and Space**

開催場所：仙台国際センター

会議期日：2000 年 10 月 9 日(月)～12 日(木)

主催者：国際光工学学会 SPIE (The International Society for Optical Engineering)

共催団体：宇宙開発事業団、東北工業大学

協賛団体：地球電磁気・地球惑星圏学会、日本測地学

会、(社)日本リモートセンシング学会、(社)日本天文学会、(社)日本気象学会、(社)計測自動制御学会、(社)大気環境学会、(社)電気学会、(社)日本分光学会、(社)レーザ学会、(社)応用物理学会、日本光学会、(社)電子情報通信学会、(社)環境科学会、レーザレーザー研究会

予定参加数：約 270 名 (うち外国人 130 名)

使用言語：英語

問い合わせ先：

第 2 回大気・環境・宇宙リモートセンシングに関する SPIE 国際アジア太平洋シンポジウム事務局  
 〒 982-8577 仙台市太白区八木山香澄町 35-1  
 東北工業大学通信工学科浅井研究室内  
 浅井和弘 asai@titan.tohtech.ac.jp  
 三浦和香 waka@titan.tohtech.ac.jp  
 Tel: 022-229-1151 内線 362  
 Fax: 022-228-2452

第 13 回理論天文学懇談会シンポジウム

「21 世紀を迎える理論天文学の総括と展望」

主催：理論天文学懇談会

日時：2000 年 12 月 25 日(月)～27 日(水)

場所：京都大学基礎物理学研究所 (予定)

〒京都市左京区北白川追分町

内容：理論天文学の各分野において 20 世紀に得られた成果を、特徴的な 2 つの研究スタイル：「(A) 観測立脚型」と「(B) 第一原理立脚型」、それぞれの視点から総括し、お互いの連関を把握した上で、21 世紀への新たな発展の方向を探る。

詳細：

<http://www.kusastro.kyoto-u.ac.jp/kamaya/riron/13th.html>

にて最新情報が公開されております。

定員：約 120 名 (参加費無料)

講演、参加申込締切：10 月 23 日(月)

連絡先：〒 606-8502 京都市左京区北白川追分町

京都大学大学院理学研究科 釜谷 秀幸

Tel: 075-753-3896

Fax: 075-753-3897

e-mail: riron00@kusastro.kyoto-u.ac.jp

## 郵政省通信総合研究所

## 平磯宇宙環境センター一般公開のお知らせ

平磯宇宙環境センターでは、太陽・惑星間空間・地球磁気圏・電離層など宇宙環境の監視と予報を行なっています。また、人工衛星や世界各地の観測データ及び独自の観測データを基にして、太陽フレアや地磁気じょう乱及び電離層じょう乱などの現象に関する研究を行なっています。

一般公開では太陽の光学・電波観測施設や宇宙環境情報サービスのデモ等をご覧になれます。

日時：7月29日(土)10時～16時

場所：通信総合研究所 平磯宇宙環境センター

〒311-1202 茨城県ひたちなか市磯崎町 3601

問い合わせ先：Tel: 029-265-7121 (代表)

Fax: 029-265-9709

e-mail: rwc@crl.go.jp

ホームページ <http://hirweb.crl.go.jp>

## 2000年度公開天文台ネットワーク (PAONET) 加入受付のお知らせ

「公開天文台ネットワーク」(略称、PAONET：パオネット)は、国立天文台が広報普及活動の一環として、各地の公共天文台・プラネタリウム・科学館・教育センター・学校などに対し、電話回線を通じて天文の最新画像や情報などを提供するシステムです。PAONETは1995年11月から正式に稼動しており、現在約120の加入団体が参加されております。

加入資格は：

- ・天文の普及・教育を目的とした非営利団体であること。
- ・所属長の加入承認が必要なこと。
- ・担当者(施設職員)にコンピュータの知識があること。
- ・担当者(施設職員として、または施設として)が電子メールアドレスを持っている(電子メールで必ず連絡がとれる)こと。
- ・Windowsが動作するパソコン、電話回線、モデムがあること。
- ・最近PAONET参加ユーザーの互助により、MacintoshやLinuxでも利用する環境が整っています(基本はWindowsです)。
- ・電話で直接PAONETのHOST(アクセスポイント)にアクセスする方法以外に、HOST迄遠距離にあるユーザーの為にプロバイダー経由でUUCP

による取得が出来る様になりました。

- ・インターネットプロバイダーまたは直接接続のインターネットを介して、FTPにて画像を取得できる様になりました。

※PAONETは公開施設および教育機関を対象としたサービスですので営利団体・個人の参加はできません。

加入団体の義務は：

- ・年度末に報告書を提出すること。
- ・運用規則を遵守すること。
- ・担当者は毎年1回開催される「PAONET全体ユーザーズミーティング」に出席すること。新規ユーザーには翌日に「新規ユーザー向けのミーティング」も行います。

※義務を果たされない団体には自動的に退会して頂くことになります。

募集のメ切は、8月31日(木)の予定で、加入申請を受付けます(8月31日必着)。加入が承認された団体には、9月26日(火)27日(水)に東京・三鷹にて行なわれる予定の、「PAONET全体および新規ユーザー会」に参加して頂き、各種の説明と資料およびプログラム等の配布を受けます。

資料や参加申込書などの請求、質問は下記宛に郵便、Fax、電子メールにてお願いします(電話でのお問合せは担当者不在が多い為、できるだけお避けください)。

国立天文台 天文情報公開センター

広報普及室内 PAONET事務局

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

Tel: 0422-34-3688

(平日、9:00～18:00 一般質問電話兼用)

Fax: 0422-34-3810

e-mail: paomgr@nao.ac.jp

会務案内

日本天文学会早川幸男基金受給者募集要項

日本天文学会 早川幸男基金（若手海外学術研究援助基金）内規\*に基づき、海外学術研究に対して援助を希望する者を募集（2000年度第4期）致します。

1. 援助金総額 年間 200 万円（2000 年度）
2. 援助件数 年間 10 数件程度
3. 募集対象期間 2000 年 10 月 1 日～12 月 31 日の間に日本を出発するもの。また前回の応募時に間に合わず、すでに渡航してしまった場合はその事情説明をつけて応募して下さい。
4. 応募必要書類（少なくともコピーの分は A4 紙に統一すること）

原本 1 部、コピー 5 部。

書類（特にコピーの分）に不備があると審査段階で不利益を被る恐れがありますのでご注意ください。

- (1) 応募用カバーシート（第 93 巻 4 号 237 頁の応募用紙を A 4 に拡大コピーして使用する）。なお、渡航目的と応募者の研究内容との関連は詳しく書くこと。
  - (2) 論文リストを含む研究業績
  - (3) 観測については、観測計画通知および観測提案の写しか、それに準ずるもの
  - (4) 国際共同研究については、渡航先の招聘状および研究計画の概要
  - (5) 研究会参加については、当該研究会開催の主旨を説明する資料、プログラム、および応募者の寄与（口頭発表等）を証明するもの
  - (6) 大学院生の場合、研究指導者の意見書
  - (7) 航空運賃の見積書
  - (8) 関連研究論文の写し（一編）
5. 応募締切：2000 年 9 月 10 日必着
  6. 決定時期：2000 年 9 月下旬
  7. 応募書類送付先：
    - 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1
    - 国立天文台内 日本天文学会 早川基金募集係

\* 早川基金内規（社団法人日本天文学会定款参照）による援助対象資格は「日本天文学会会員で、原則として 35 歳以下の天文学研究者であって、この基金以外の海外渡航費（滞在費を除く）の援助を受けない者。」です。

\* 2000 年はこの後、12 月 10 日締め切りで 2001 年 1 月～3 月出発分の募集を行う予定です。応募希望者は書類等の準備をしてください。

\* 援助者には、1,200 文字以内の帰国報告書と、あれば写真の提出をお願いします。天文月報に掲載します。

第 12 回日本天文学会研究奨励賞受賞候補者の推薦について

本会は、優れた研究成果を挙げている若手天文学者に対して、日本天文学会研究奨励賞を授与しています。

受賞資格は

- 1) 日本天文学会正会員で、最近 3 年間における天文学への寄与が顕著なる者
- 2) 当該年度初日（本年度は 2000 年 1 月 1 日）で 35 歳以下の者であって、原則として 1 年に 1 名を対象とし、賞牌（メダル）及び賞金を併せ授与しています。本年度の受賞候補者の推薦を以下の要領でお願いします。

(1) 締切：2000 年 9 月 30 日(必着)

(2) 提出書類：

- 候補者名、現職、生年月日、○研究の表題、○推薦者の氏名と連絡先、・推薦理由、○関連論文リスト、○推薦に関連して最も重要な論文のコピー（複数可）

(3) 提出先：

〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1

国立天文台内 日本天文学会研究奨励賞選考委員会

選考委員会では、推薦された方の中から、研究奨励賞内規に基づき選考を行い、候補者を評議員会に推薦します。なお参考として、これまでの受賞者は <http://www.asj.or.jp/asj/> にリストされています。

【日本天文学会評議員会 議事録】

日 時：2000 年 4 月 4 日(火)12 時 00 分～13 時 00 分

場 所：東京大学山手上会館 203 号室

出席者：家、池内、今井、尾崎、古在、佐藤、杉本、長谷川、羽部、半田、松田、古屋、井上、上野、岡村、奥田、海部、小平、小山、須藤、福江（以上 21 名）

欠席者：小杉、祖父江、谷口、加藤、鈴木、高原、福島、観山、吉田（以上 9 名）

有効委任状提出者：小杉、谷口、加藤、鈴木、観山（以上 5 名）

他に理事会から庶務理事 大石、会計理事 立松、中井研究奨励賞選考委員会委員長が出席

議事に先立ち、議長に須藤靖氏を、署名人に松田卓也氏、羽部朝男氏を選出した。

## 議事の経過及び結果

1. 独立行政法人化に関する共同声明を、関連学会、マスコミなど約 200 機関に送付したことが大石庶務理事より報告された。
2. 前回 (2000 年 1 月 29 日) の評議員会議事録が報告され、承認された。
3. 2000 年度日本天文学会春季総会について報告があった。
4. 1998 ~ 1999 年度に渡る会費未納者のリストが提示され、19 名の除名が承認された。これに関連して須藤評議員より会費納入は前納を原則とするべきであるという意見が出され、意見交換の後、前納制度を原則とする方向が確認された。その実施方法にあたっては理事会に一任することとなった。
5. 1999 年度研究奨励賞受賞者候補者について前回の評議員会で結論が持ち越しになっていた 1999 年度研究奨励賞受賞者の決定について、中井研究奨励賞選考委員会委員長よりその後の経緯に関する報告があった。意見交換を行い、7 月の評議員会に最終報告書を提出するよう選考委員会に要請することとなった。
6. その他
  - (1) 今年会で初めて行なった中高生を中心としたジュニアセッションの実施報告が大石庶務理事よりあった。セッションでの報告は口頭 14 件、ポスター発表が 3 件あった。中高生の参加者は約 100 名、セッション全体の参加者は 200 名を越え、発表内容のレベルも高く、大変盛況であった。
  - (2) 大石庶務理事より、天文学会のノード名を tenmon.or.jp から asj.or.jp に変更したいとの提案があった。変更にあたっては会員に十分に周知し、電子的な情報交換に不都合が起きないような経過措置をとることを確認し、変更は承認された。
  - (3) 学会事務室を 7 月ないし 8 月に国立天文台テープ保管庫に引越しする予定であることが、大石庶務理事から報告された。
  - (4) 古在評議員より各賞の推薦・受賞状況を会務報告に載せて欲しいとの要望が出された。

議長 須藤 靖  
署名人 松田卓也  
署名人 羽部朝男

## 【理事会 議事録】

日時：2000 年 4 月 5 日(水) 12 時 00 分 ~ 13 時 00 分  
場所：東京大学山上会館 203 号室

出席者：尾崎、家、小山、柴田、大石、立松、吉川、上野、有本、沢、大谷、山岡、橋本、牧島 (以上 14 名)

欠席者：紀伊 (有効委任状提出あり)

他に千葉大学宮路茂樹氏が年会準備状況の報告のため出席した。

議事に先立ち、署名人を選出した

議長：尾崎洋二

署名人：柴田一成、大石雅寿

## 議事の経過及び結果

1. 前回 (2000 年 1 月 22 日) の理事会議事録が報告され、承認された。
2. 昨年 11 月に作成した天文月報に掲載した独立行政法人化に関する天文学研究連絡会議との共同声明を関係学協会、マスコミなど約 200 機関に送付したことが大石庶務理事より報告された。
3. 天文学会事務室が、本年 7 月ないし 8 月に国立天文台テープ保管庫に移転することとなったことが大石庶務理事より報告された。
4. 2000 年春季年会について吉川年会実行委員長から報告があった。年会登録者は 814 名、うちジュニアセッションと天文教育フォーラムのみの登録者は 154 名である。講演数は 392 であり、その内訳は口頭発表 (15 分) が 202、口頭 3 分 + ポスターが 134、ポスターのみが 56 である。講演キャンセルは 1 件のみ、ポストデッドラインペーパーは 2 件であった。記者会見には 5 社の報道機関が参加、展示コーナーは 4 件あった。講演会場は 6 会場である。懇親会参加者は 180 名ほどであった。ジュニアセッションでは 14 の口頭発表 (うち 12 件はポスターでも発表) と 3 つのポスター発表があり、参加者は 250 名ほどであった。参加者の発表はいずれもレベルの高い発表であり、各質問にも適切な応答を行っていた。今後ジュニアセッションを継続するかどうかは、セッション中に行なったアンケートの結果を踏まえて判断することとなった。
5. 新入正会員の名簿が大石庶務理事より示され、4 名の入会が承認された。
6. 2000 年秋季年会の準備状況について橋本理事より報告があった。開催期間は 10 月 5 ~ 7 日である。会場は 6 会場の確保ができており、8 会場までは対応可能である。公開講演会は 10 月 8 日に行なう。ポスター会場の面積は約 1000 m<sup>2</sup> ほどある。会員から要望が強いぐんま天文台へのエクスカッションを計画している。続いて 2001 年春季年会の準備状況について千葉大学の宮路茂樹氏より報告があった。会期は 2001 年 3 月 26 ~ 28 日を予定し、公開講演会は 3 月 25 日となる。ポスター会場は総面積約

800 m<sup>2</sup>分を確保する。会場のうち6会場には液晶プロジェクターがついている。これに関連して吉川年会実行委員長より、各セッションでレビュー講演を行なってはどうかとの提案があった。具体的な実施方法の検討に時間をかけ、早くして2001年年会より実施する方向が確認された。

7. 正会員（学生）として取り扱う際の資格確認方法について、現在の「自主申告」から「在学証明書もしくは学生証の提示」に変更してはどうかとの提案が大石庶務理事よりあった。意見交換の後基本方針は了承され、具体的方法を庶務理事より理事会全体に提示した後実施することとなった。

8. 98～99年度に渡って会費を納めていない会員19名が、4月4日に開催された評議員会の承認を経て除名となるのが、大石庶務理事より報告された。

9. その他

(1) 大石庶務理事より、天文学会のノード名を [tenmon.or.jp](http://tenmon.or.jp) から [asj.or.jp](http://asj.or.jp) に変更したいとの提案があった。変更にあたっては会員に十分に周知し、電子的な情報交換に不都合が起きないように経過措置をとることを確認し、変更は承認された。

(2) 次回の理事会・評議員会の予定を以下のように決定した。

理事会：2000年7月8日(土)

評議員会：2000年7月15日(土)

(3) 加藤万里子氏より要望があった研究機関における別姓の運用を求める文書内容について意見交換を行い、6月までに各研究機関に送付する文面を詰めることとした。

(4) 会員数の1/4が会費を未納している事態を改善するため、会費前納（自動引き落とし）について意見交換を行った。

(5) ASTRO-Eの再打ち上げを要望する文書を早急に取りまとめ、各関係機関に協力をお願いする方針を確認した。

議長 尾崎洋二

署名人 柴田一成

署名人 大石雅寿

### 訂正とお詫び

天文月報第93巻7号の401ページのなかに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

誤 1999年度「星形成過程の初期段階の観測的研究」

正 1994年度「星形成過程の初期段階の観測的研究」

### ●お知らせ●

6月より学会のメールとホームページのアドレスが変わりました。

e-mail: [jimu@asj.or.jp](mailto:jimu@asj.or.jp) (事務室)

e-mail: [gpjimu@asj.or.jp](mailto:gpjimu@asj.or.jp) (月報)

e-mail: [office@pasj.asj.or.jp](mailto:office@pasj.asj.or.jp) (欧文編集)

e-mail: [nkdtjp@asj.or.jp](mailto:nkdtjp@asj.or.jp) (年会)

<http://www.asj.or.jp/>

旧ノード名 ([tenmon.or.jp](http://tenmon.or.jp)) も10月末日まで使えます。

### ●2001年度年会予定●

春季年会

期日：2001年3月26日(月)～3月28日(水)

ホスト：千葉大学

秋季年会

期日：2001年10月4日(木)～10月6日(土)

ホスト：西はりま天文台(兵庫県)

編集委員 上野孝孝(編集長)、伊藤孝士、大橋正健、小野智子、斎藤芳隆、田村元秀、土橋一仁、内藤統也、和田桂一  
平成12年7月20日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

印刷発行 印刷所 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷

定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会

TEL: 0422-31-1359 (事務室) / 0422-31-5488 (月報・欧文編集) FAX: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595

日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: [gpjimu@asj.or.jp](mailto:gpjimu@asj.or.jp)